

令和 2 年度

事業報告書
及び附属明細書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

公益財団法人 八王子市学園都市文化ふれあい財団

I 令和2年度財団経営の総括

令和2年度は、令和元年12月に発生した新型コロナウイルス感染症が国内でも拡大し、4月と令和3年1月の2回の「緊急事態宣言」で、外出自粛や休業要請を受け、施設の利用休止や休館及び夜間利用制限を行ったことなどにより、計画していた多くの事業が中止や延期となるなど財団経営に大きな影響を受けました。

このような状況の中、休館から再開した施設管理においては、受付へのアクリル板・手指消毒液の配置や非接触型体温計での検温の実施、また、マスク着用での接客など感染症対策を徹底し、3文化施設、夢美術館、18市民センター、14地区会館及び上柚木公園を適切に管理運営したほか、以下の各事業を実施することができました。

芸術文化振興事業では、「八王子音楽祭2020」や「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル2020～」などが中止となりましたが、実施した事業では客席数を定員の50%としたり、「八王子学生演劇祭2020公演」、「八王子コミュニティオペラ ガラコンサート」などは無観客で開催しました。

夢美術館は、6月9日より展示室の一部を会場にした収蔵品展示で再開し、その後特別展を4回開催しました。

また、コミュニティづくりでは地域住民協議会と連携し、各市民センターを中心に地域交流の場を提供するとともに、来館せずに利用申し込みができるWebによる「利用申し込みサイト」を開設しました。

上柚木公園では、小学生対象短距離走競技会「第9回はちおうじダッシュ!」を、規模を縮小しながらも実施したほか、地域のボランティア団体などと連携し、安全できれいな公園づくりを行いました。

学園都市づくりでは、学園都市大学（いちよう塾）の開講、大学コンソーシアム八王子の支援を行いました。

経営面では、公演の中止・延期や施設の利用中止・休館及び夜間利用制限を実施したことで、入場料及び利用料金が大幅に減収となり、年度当初から効率的な業務執行や経費削減に努め、雇用調整助成金等の制度を活用するなど収入確保に取り組んだものの、収入の落ち込みは大きく厳しい決算となりました。

※ 中止及び延期となった事業の詳細については「Ⅲ 事業一覧」を参照

1. 中期経営計画の重点施策と結果

令和2年度は、第2次中期経営計画の最終年度にあたり、同計画に掲げた施策・目標に基づく事業計画の推進に向け準備・調整をしましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの事業が実施できませんでした。重点施策の結果は次のとおりです。

- (1) 魅力ある芸術文化事業を全市的に展開し、「芸術文化薫る魅力都市八王子」を市内外に発信する
「柳家三三・三遊亭兼好 二人会」や「八王子コミュニティオペラ ガラコンサート」ではオンライン生配信・アーカイブ配信を初めて取り入れ、また「八人の王子たち」や「南大沢ジャズシリーズ」では公演終了後 YouTube で映像公開するなどコロナ禍の中でも多様なジャンルの鑑賞機会を提供しました。
- (2) 子ども・市民の文化活動、地域コミュニティ活動を支援し、豊かな市民生活実現と地域コミュニティ活性化に貢献する
子ども・市民の文化活動では、東京交響楽団の奏者が直接指導をするユースオーケストラ事業や、学校に音楽を届けるアウトリーチ事業などを通じて、多くの子どもたちが音楽に触れる機会を提供し、子どもたちの健全な育成に寄与しました。また「八王子学生演劇祭2020公演」では、学校単位の参加のほか個人参加のワークショップを実施し学生の文化芸術活動の支援を行いました。

地域コミュニティ活動では、地域の住民協議会が実施する講座や講演会などを支援し、地域コミュニティの活性化に寄与しました。

(3) 指定管理施設において、万全な維持管理と常に進化する運営でお客様満足の最大化を図る

利用制限や感染防止対策などお客様にもご協力をいただきながらの開館が続くなか、お客様の声対応システムの運用等によりお客様のニーズを的確にとらえ改善に結びつけ、常に利用者目線に立った施設運営を行いました。

(4) 経営基盤の強化を図る

内部登用による嘱託員の正規職員化や計画的な研修による人材育成に取り組み、組織力の強化を図りました。また、効率的な業務執行により固定経費の削減を図るとともに、利用者数が減った中でもできる限り利用料金収入や自主事業収入などの確保、各種助成金や補助金の活用に努めました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う自主事業の中止や延期及び施設の利用制限などの影響で大幅な減収となりました。

2. 課題と展望

(1) 自主事業収入等の増収

幅広く市民のニーズを把握したうえで、公演内容を選択し、オンライン配信など、新しいサービスを取り入れた事業運営を行う必要があります。指定管理施設では、基本的財源である利用料金収入の上積みと自主事業収入の利益率を高め増収を図ります。

(2) 固定経費の抑制

事業活動収支は新型コロナウイルス感染拡大による収入減により、平成 26 年度から続いた黒字決算が途切れることになりましたが、光熱水料費・消耗品費等の効率的な執行や雇用調整助成金等の活用など収入を確保し、赤字額の縮減に努めました。引き続き、新電力契約等による光熱水料費の削減や、複数年・複数館契約による委託費の縮減など効率的な執行を進めていきます。

(3) 組織力の強化

活力ある組織を構築するために職員の構成を見直すとともに更なる人材育成に取り組む必要があります。正規化した職員の更なるスキルアップを図ることや外部登用による人材の確保を進めます。

(4) 情報発信の強化

財団主催事業の広報や宣伝を強化し観客数の増加を図るとともに、施設の利用案内などを積極的に発信し、利用率を向上させる必要があります。

財団の情報紙を見直し拡充するとともに、マスメディアやSNSなど様々な手段で情報発信の強化を図ります。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないなか、お客様に安心して施設をご利用いただくため、お客様に対しての目に見える万全な感染防止対策を継続するとともに、コロナ禍でも可能な事業実施方法などを検討していきます。

II 事業概要

1. 芸術文化の振興

(1) 音楽・演劇等

① 鑑賞機会の提供

クラシックコンサート、ポピュラーコンサート等を実施しました。

ア. 重点事業

第11回目となる「八王子音楽祭 2020」は、海外からのアーティストの招聘が出来ず、中止となりました。



南大沢ジャズシリーズ

イ. いちょうホール

「八人の王子たち」や「柳家三三・三遊亭兼好 二人会」、「八王子コミュニティオペラ ガラコンサート」など、多様なジャンルの公演を実施しました。「八人の王子たち」はダイジェスト版を後日無料配信し、「二人会」と「ガラコンサート」は有料ライブ配信を実施しました。



八王子ユースオーケストラ

ウ. 南大沢文化会館

「南大沢ジャズシリーズ 深まる秋の極上ジャズタイム」を実施し、ダイジェスト版を後日無料配信しました。

エ. オリンプスホール八王子

「フレッシュ名曲コンサート大友直人/東京交響楽団の響き」を実施しました。また「Life is Songs!」では、客席を1席空けにするために1回公演を2回公演に変更して実施しました。



学校アウトリーチ

② 文化活動等普及

第5回目となる「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル 2020～」は中止となりました。

演劇では学生が参加する体系的なワークショップと発表公演を実施しました。

また気軽に楽しめる平日開催のコンサート、学校の希望に沿った演奏を届けるアウトリーチ事業を実施しました。

ア. いちょうホール

「八王子学生演劇祭 2020 公演」の関連ワークショップと発表公演、「八王子ユースオーケストラ」の練習を実施したほか、八王子車人形の集大成シリーズをオンライン配信で実施しました。

イ. 南大沢文化会館

小中学生を対象にした「MOBダンスワークショップ」は10月～12月にリモートにて実施しました。また平日の午前中に市民が気楽に楽しめる「モーニングコンサート」は、12月と2月に実施しました。

ウ. 学園都市センター

「マームとジプシー『BEACH BOOTS CYCLE』」公演は中止しましたが、関連企画として、演劇制作ワークショップを実施しました。

エ. オリンパスホール八王子

市民合唱八王子クリンゲンコアによるオペラ万葉集の公演を予定していた東京交響楽団の「フレッシュ名曲コンサート」は、プログラムを変更して実施しました。

オ. 学校アウトリーチ事業

マリンバ・パーカッションユニットが市内小学校に出向き、聴いても見ても楽しい演奏を繰り広げ、子どもたちが生の音楽を楽しむ機会を提供しました。

③ 公演等への支援や実行委員会の事務局運営

市民が主催する芸術文化事業に対し、当日の運営や舞台作りのアドバイスなどの人的支援や会場利用料の一部助成などを行いました。

(2) 美術（夢美術館）

美術鑑賞、文化芸術活動等の普及事業や施設の維持管理、収蔵品の保管を適切に行いました。

① 美術鑑賞

ア. 国内外で高い評価を受けている優れた美術品等の紹介として「宮廷画家 ルドゥーテとバラの物語」、「近代西洋絵画名作展印象派からエコール・ド・パリまで」、「土門拳×藤森武写真展 みちのくの仏像」を特別展で開催しました。来場者が間隔を十分とれるよう、併設の常設展展示室も特別展会場として使用しました。特別展「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展」は緊急事態宣言発出中のため中止しました。

イ. 学生や子どもたちも楽しめる展覧会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「ムットーニワールド からくりシアターⅤ」、「しかけがいろいろ！とびだす絵本展」は中止しました。

ウ. 市にゆかりの作家の国内トップレベルの作品を紹介

特別展の「夢美セレクション展」や常設展で小島善太郎、鈴木信太郎、城所祥、清原啓子など市にゆかりの作家の国内トップレベルの作品を紹介しました。



「宮廷画家 ルドゥーテとバラの物語」

② 文化芸術活動等普及

ア. 大学連携事業として帝京大学と「洋画家 小島善太郎資料研究」を実施し、収蔵品の調査と展示を行いました。

イ. 東京富士美術館、村内美術館と連携した「第15回 はちおうじ美術館めぐり SUN☆KAN ラリー」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

ウ. 展覧会や展示作品の理解を深めるための展示室内での解説会（ギャラリートーク）は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しましたが、「宮廷画家 ルドゥーテとバラの物語」では講演会を1回開催しました。

また、特別展図録と収蔵品を紹介する図録等を販売しました。



「土門拳×藤森武写真展
みちのくの仏像」

(3) 文化施設の管理・運営

芸術文化会館（いちようホール）、南大沢文化会館の指定管理者として、利用者満足度向上のため、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料金徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに施設利用の促進に努めました。

ア. 芸術文化会館（いちようホール）

入場者数 60,717人 施設利用率 54.9%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.4%（大いに満足と満足の合計）

イ. 南大沢文化会館

入場者数 49,211人 施設利用率 73.8%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 96.1%（大いに満足と満足の合計）

(4) 美術館の管理・運営

夢美術館の指定管理者として、施設、設備、備品、収蔵品の適正な管理及び受付業務（観覧料の徴収など）を行いました。

開館日数 206日 施設利用・事業参加者数 13,833人（うち展覧入場者数13,701人）

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 97.6%（大いに満足と満足の合計）

2. コミュニティづくりに関する事業

(1) コミュニティの育成

ふれあいのあるまちづくりの推進及び地域住民の交流促進を図るとともに、地域コミュニティの高揚及び啓発を図りました。

① コミュニティづくりの活性化

地域住民の交流の場の提供及び地域コミュニティの一層の活性化を図るため、住民協議会と協働し、地域の方を対象とした「コミュニティ講座」を横山南市民センターで実施しました。

また、「3.11 メモリアルトーク」を住民協議会連絡協議会と共催で実施し、東日本大震災を振り返ることにより、防災についての意識啓発を図りました。



コミュニティ講座

② 住民協議会連携事業

17 住民協議会で組織する住民協議会連絡協議会の総会は書面で開催し、定例会は2回実施して、情報交換や意見交換を行いました。また、住民協議会役員を対象として、コロナ禍における地域コミュニティ活動について講演会を実施しました。



コミュニティ講演会

③ 地区図書室の運営

住民協議会と連携した運営により、図書の貸出しや八王子市図書館の蔵書のリクエスト受付及び貸出・返却業務などを担いました。

なお、「読み聞かせ」や「季節ごとの行事」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染防止対策をとりながら、一部実施しました。

④ コミュニティ用具の貸出し

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、センターまつりなどの各種イベントが中止となり用具の貸出しも減りましたが、プロジェクターについては7月ごろから利用されるようになりました。

(2) コミュニティ活動の支援

地域コミュニティの一層の活性化を図るため、住民協議会への運営経費や八王子いちよう祭りの開催等経費の一部を助成しました。また、「八王子まつり」、「フラワーフェスティバル由木」の事務局を担当しました。

① 住民協議会への助成事業

地域コミュニティづくりの推進団体である17地域住民協議会の活動を支援するため、運営費のほか、広報紙の発行費用をそれぞれ助成しました。なお、各地域の市民センターまつりなどの催し物は、すべて中止または延期となりました。

② まつりへの助成事業

開催に向け準備を進めていた、「八王子まつり」、「フラワーフェスティバル由木」及び「踊れ西八夏まつり」が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったため、開催準備経費のみを助成し、市民の交流促進など地域の活性化に向けた活動の継続を支援しました。

(3) 地域ふれあいサロン

市民センター内に一人でも気軽に立ち寄れる「地域ふれあいサロン」を住民協議会と連携・協働し、2市民センター（由井、川口）で実施しました。

(4) コミュニティ施設の管理・運営

住民協議会や地元町会・自治会などと連携し、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、利用案内、施設貸出及び利用料金徴収などの業務や、施設や設備の保守管理業務を行いました。

利用者数 641,186人 施設利用率 52.9% ※区分利用率

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 97.1%（大いに満足と満足の合計）

※市民センターの区分利用率は午前・午後（A・B）・夜間（A・B）それぞれの利用区分数の合計を利用可能区分数で除した数

3. 市民のスポーツ活動の促進

(1) 地域との協働

地域と協働した公園づくりを進めるため、アドプト団体やボランティア団体と協働し、安全できれいな公園づくりを行うとともに、就業体験の場の提供として、東京都立南大沢学園の実習生等の受け入れを行いました。

また、上柚木地区の樹林地内の竹林を整備するとともに、活用について日本工学院八王子専門学校土木・造園科と協働して検討を進めました。

(2) 豊かな自然の保護と活用

上柚木公園の貴重な環境資源を活かすため、自然観賞教室やサレジオ工業高等専門学校の協力のもと上柚木小学校と協働して行った樹木プレートの製作など9事業を実施したほか、環境資源事業として高尾の森づくりの会の協力のもと里山の林床再生を実施しました。



上柚木小学校と樹木プレート製作

(3) 市民の健康増進・子どもの体力向上

市民の健康増進・子どもの体力向上関連 8 事業（うち後援 1 事業）を実施しました。

市内唯一の小学生対象短距離走競技会「はちおうじダッシュ！」は、市内陸上関係者と開催の是非について検討会を重ね、市内小学校 6 年生に絞って実施し、47 人の児童が参加しました。

また、大会のロゴマーク、ポスターチラシのデザインを東京造形大学に依頼し、学生が作成したデザインをコンペ方式で選定しました。

コニカミノルタ陸上競技部や JR 東日本ランニングチームのコーチたちが講師を務める「ジュニアジョギング教室(年 10 回)」では、地元の小中学生 43 名に指導をしました。



第 9 回はちおうじダッシュ！

(4) 上柚木公園の管理・運営

運動施設を含む上柚木公園の指定管理者として、使用受付・貸出及び利用案内、使用料収納事務などの運營業務を行いました。また、施設・設備の保守管理・運動施設管理業務、安全安心の遊具管理など適正な公園施設管理業務を行いました。

運動施設利用人数	155,921 人	施設利用率	85.9%
利用者満足度調査結果		総合的な満足度	99.1% (大いに満足と満足の合計)

4. 学園都市づくりの促進

(1) 学園都市大学

八王子学園都市大学（いちよう塾）では、大学コンソーシアム八王子加盟の 25 大学等を含む講座提供機関 32 機関より 306 講座の提供がありましたが、新型コロナウイルスの影響により 115 講座の開講にとどまりました。

また、受講生の募集のため、講座案内 13,000 部及び市広報特集号 570,000 部を作成するとともに、学園都市センターをはじめとする市施設に講座ごとに作成したチラシを配布する等、市内外への周知に努めました。



いちよう塾 講座風景

(2) 大学コンソーシアム八王子

大学コンソーシアム八王子の事務局として運営を支援しました。

① 大学等連携事業

- ア. 大学コンソーシアム八王子に加盟する 25 大学等と連携して開催している「夏休み子どもいちよう塾」は、新型コロナウイルスの影響により中止しました。
- イ. 全国の教職員を対象とした「FD・SDフォーラム」は、新型コロナウイルスの影響によりオンラインで 1 日のみの開催（基調講演・パネルディスカッション）とし、2 日目の分科会は中止しましたが、過去最高の 400 人を超える参加者を集めることができました。「SD勉強会」は、中止しました。

② 情報発信事業

- ア. 情報紙「大学コンソーシアム八王子情報 Vol. 18『八王子まるごと子どもキャンパス』」を発行しました。
- イ. 2020 新入生のための生活便利帳「シティインデックス八王子」を発行しました。
- ウ. SNS の活用を含めたウェブサイトにより情報を発信しました。

③ 学生活動支援事業

- ア. 八王子地域を舞台に地域貢献を目的として学生が企画・運営・実施する「学生企画事業」に補助金を交付するとともに成果報告会をオンラインで開催しました。
- イ. 「八王子まつり山車曳き体験」は、八王子まつりが開催されなかったことから中止しました。
- ウ. 「八王子地域学生活動連絡会」では、八王子及び他地域におけるコロナ禍でのボランティア活動の報告を対面及びオンラインの併用で行いました。
- エ. 八王子学生委員会と共催している「八王子地域合同学園祭 第15回★学生天国★」は、中止しました。



学生企画事業補助金成果報告会

④ 産学公連携事業

- ア. 学生による様々な分野の研究成果を発表する「第12回大学コンソーシアム八王子学生発表会」は、対面とオンラインの併用で開催しました。
- イ. 新型コロナウイルスの影響により「八王子学生CMコンテスト」及び「八王子学生CMコンテストワークショップ」は、中止しました。



第12回学生発表会

⑤ 外国人留学生支援事業

- ア. 「教職員のための勉強会」は、オンライン開催とし、大学コンソーシアム大分や立命館アジア太平洋大学の取組みを伺いました。
- イ. 「留学生座談会」もオンライン開催とし、企業で活躍する多国籍社員との座談会（第1部）及び留学生同士の交流会（第2部）の2部制で開催しました。

⑥ 八王子市学園都市推進会議

- ア. 「八王子地域合同学園祭ビッグウエスト学生フェスティバル 2020」は中止しました。
- イ. 「八王子いちょう祭り・学生広場 八王子市学園都市づくりコーナー」はいちょう祭りの中止に伴い中止しましたが、「第97回東京箱根間往復大学駅伝競走出場校合同壮行会」と「箱根駅伝出場校への応援メッセージ募集イベント」、「B・W・O学生落語会」は、開催しました。

(3) 学園都市センターの管理・運営

学園都市センターの指定管理者として、利用者満足度向上のため、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料金徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに施設利用の促進に努めました。

入場者数	35,833人	施設利用率	62.9%
利用者満足度調査結果	総合的な満足度 100%(大いに満足と満足の合計)		

5. 法人管理

(1) 財団の管理・運営

予算決算・経理・人事管理等を適正に行い、円滑な運営に努めました。
また、評議員会を2回、理事会を5回、諮問委員会を2回開催しました。

(2) 収支安定の取り組み

外部助成金の獲得や営業活動により収入の確保に努め、利用料金収入の減収を補いながら、効率的な業務の執行により支出を抑制して収支の安定に取り組めました。

(3) サービス品質の向上

マネジメントの確実性を高めるとともに、お客様の声を的確に改善につなげ、利用者目線に立った施設管理を行いました。また、情報セキュリティポリシーに基づき情報資産や情報機器を適正に管理しました。

(4) 組織力強化

① 人事制度の改革

内部登用による嘱託員の正規職員化でモチベーションを高めて将来の財団を担う人材を確保するとともに、60歳定年退職後の再任用について制度化しました。

② 人材の育成

研修計画に基づき各種研修を実施したほか、サービス介助士の資格習得や指定管理事業計画で提案した上級救命講習に参加させるなど、職員のスキルアップを図りました。

③ 情報発信力の強化

芸術文化公演を始めとする各種催物などの情報や本財団が管理運営する施設の利用案内を情報紙、インターネットなどを通じて市民に発信しました。また、18市民センターにおいては新たにWEBによる抽選申込を導入し、市民サービスの向上を図りました。

(5) 第2次中期経営計画及び指定管理提案の目標達成

理事長、常務理事及び財団管理職で構成する「執行会議」を毎月開催し、各所管の課別経営計画の進捗状況や成果について情報を共有するとともに、具体的な改善策を検討・実施しました。また、管理職で構成する「部課長連絡会」を開催し、情報共有を図るとともに、事業検討や課題解決に取り組めました。

令和2年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第9条第2号に規定する事業報告の附属明細書は作成していません。